

動物の診察室から

○ 38 ○

今年の夏に、腰が立たなくなった羊がトラックに乗って病院へ来ました。家が野菜などを持ち寄って販売しているファームで、その敷地内に羊たちはいました。治療した時はあまりなれていませんでしたが、今ではすっかり人になれています。そして、みんな名前がついており、腰麻痺を起こした羊は「ケイちゃん」です。

羊の腰麻痺を起こす原因として「指状糸状虫」があります。蚊によって感染する寄生虫で、小さな虫が神経系に迷入し、腰麻痺を起こすのです。治療は、糸状虫の駆虫薬と、ステロイドの注射を行います。すべての羊が回復するわけではありません。連れてこられた羊たち



ケイちゃんはじめみんなに可愛がられる羊たち

れる予定で、子供たちは動物とふれあうことができます。また、施設内には不幸にして捨てられた犬や猫を収容する施設もあります。犬や猫を捨てる人はまだ多くいます。一度飼った動物は一生責任を持つことを伝えられる施設、不幸にして捨てられた動物たちを一人頭でも助けることを市民みんなで考える施設、そして、子供たちが動物とふれあうことによって命の尊さを感じてもらえるような施設を市長はじめ行政は考えてくれました。

1年半後、新潟にも登場

命とふれあえる公園

って育てたので「ケイちゃん」です。心がほっとするところです。新潟市には現在子供たちが動物とふれあえるような施設はありません。しかし、行政の努力もあって、鳥屋野潟南部に仮称「ふれあい動物ファーム」が1年半後にできま

には治療を行いました。後には神経系に入った糸状虫が死んでうまく吸収されるのを待つしかありません。

ばらばらと立つことができなかったのです。が、ファームの人たちがみんなで口に餌を持って

ちゃんを看病し、ケイちゃんの好きな草を探して持って行って食べさせてあげていたので。そんな看病のかけがえが、ケイちゃん、体は小さいのですがすっかり元気になりました。そして名前

私たちも、けいちゃんのような優しい気持ちで、協力できることをしていきたい。

しほらしくして連絡を受け、立てるようになったとのことで見に行きました。そこは近くの農

「けいちゃん」は1日何回も夜遅く、朝早くケイ

小さなヤギ、ポットベリ

草村 正人 (獣医師・新潟市)